

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293100010		
法人名	社会福祉法人 南山会		
事業所名	グループホーム 憩いの里富津		
所在地	千葉県富津市青木214番地1		
自己評価作成日	平成22年3月19日	評価結果市町村受理日	平成22年5月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ウェルビーイング
所在地	千葉県木更津市長須賀1631-8
訪問調査日	平成22年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を腸苦節肌を感じていただけるよう、散歩を毎日の日課としている。</li> <li>・地域の行事に積極的に参加し、地域の方々との交流を図っている。</li> <li>・月1回の利用料の支払は原則窓口払いとし、ご家族との面会の機会を設けている。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設は明るくゆとりのある廊下やオープンキッチン、全居室にはトイレ・洗面を取り入れ、また廊下には人感センサーが設置され異常な行動を判断できるようになっており安定して生活できるようにしています。日中の施設しない取り組みが上手く行われ、利用者の精神的安定が得られて、屋外への徘徊者がいなくなっています。避難訓練は消防や地区との協力を得ながら行われて、避難方法の取り組みも行われています。期待したいこととしては、運営推進会議の開催回数やメンバーを増し、またマニュアル類(プライバシー・身体拘束・事故・災害予防)作成と研修の実践を通して業務の改善を図ってほしい。</p>
---

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ul>	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ul>
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くない</li> </ul>
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ul>
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<ul style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ul>		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所内や玄関に掲示するとともに、会議等で再確認することで共有し、実践している。	月1回の職員のほぼ全員が出席する全体会議で、理念について必ず触れ、掘り下げて話し合い、実践面に反映するように努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会主催の行事に出向いたり、近くの保育園の行事に参加している。又、日課の散歩では、地域の方々と挨拶を交わしている。	地域の盆踊り大会や近くの保育園の七夕まつりに参加したり、毎日の散歩では近くの方と挨拶を交わしている。 又、地域の役員がホリジンの評議委員会の委員になっており、地域との交流がある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の介護方法などについての相談や問い合わせに応じている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や報告を参考に話し合いを行い、入居者様のサービス向上に活かしている。	運営推進会議での意見を、具体的なケアの向上に繋げるよう努めている。	運営推進会議の開催回数が少ないので、回数を増やすと共に、評価結果を会議に報告し、評価後の取り組み等について意見を聞いてもらいたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村関係者とは密に連絡を取り、常に状況を伝え、話し合いを行っている。	市には事業所の状況など話しており、連携は図っている。	市との連携強化を図る為、市の職員が来るように何か工夫される事を期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関を開放し、見守りにて自由にテラスへの出入りが出来ている。身体拘束については会議にて周知し、全ての職員が正しく理解している。	月1回の全体会議や、ケース検討会議で、身体拘束をしないケアについて確認し、実践に反映させている。 日中玄関のドアの施錠を止めたら、徘徊がなくなり、効果を上げている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議にて話し合いを行い学ぶ機会を持ち、虐待防止に努めている。		

憩いの里富津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については研修で学んでいる。又、成年後見制度の事例があり支援を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、気持ちを酌みながら、理解・納得の上で同意して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部に苦情相談窓口を設けている。又、外部苦情相談窓口の案内も行っている。	家族の意見や苦情を把握する為に利用料金を直接事業所に持参してもらい、家族との話し合いの機会を作っている。	家族と事業所との「連絡帳」を作り、家族の意見を把握し、それを運営に反映させることが出来るよう検討されることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回個人面談を行うと共に、月例会議にて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。	月1回の全体会議や、管理者と職員と会食の場で、職員の考えや意見を聞くように心掛けている。	職員の意見等が運営に更に反映させる手立てを検討される事を期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の実績や能力により給与水準を定めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に内部の研修会を行っている。又、外部での研修に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流は今のところ無いが、他事業所と交流する機会を持ちサービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学・面談を行い、本人の話を傾聴し意見等伺い、本人が安心・納得出来るよう説明を行っている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に見学・面談を行い、家族の要望等伺い、家族が安心・納得出来るよう説明を行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の話を傾聴し、必要としている支援を見極めている。場合によっては他のサービス利用についても説明している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に応じて、出来る事は自分の役割として意識を持って頂き、少しでも張りのある生活を送って頂く。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは小さなことでも常に連絡を取り、共に本人を支えていく関係となっている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの人との面会や外出を容認し、関係が途切れることのないよう支援している。	友人が事業所を訪問したり、利用者と友人が共に外出する事を支援している。 又、馴染みの美容師が事業所に来る等、関係が途切れないようにしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立することなく、より良い関係を築いていけるよう支援している。		

憩いの里富津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経過を伺い、必要に応じて相談に乗っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、個々の希望や意向の把握が出来るように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話を聞いたり、毎日の会話の中からさりげなく聞き取り、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その時の状態に合わせて過ごして頂けるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ケース会議を行い、個々のケアと課題について話し合い、その意見に基づき介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録へ詳細に記入することで、職員間で情報を共有し、又、話し合うことで、更なるケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対し、柔軟に対応している。		

憩いの里富津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に数回、地域ボランティア招き、本人も参加することで、楽しみや喜びを与えることが出来るよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の協力医の往診により、問題があれば家族に連絡し、納得して頂いた上で、他科受診をして頂いている。	ほぼ利用者全員の方が納得されて、近隣医療機関からの月2回の往診と歯科への随時の受診により、適切な医療支援がなされています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の協力医の訪問看護を受け、異常がある場合は医師に連絡し適切な判断を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院・家族・ホームで、こまめに連絡を取り、情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員間での意見や話し合いはあるが、本人や家族との話し合いや、地域の関係者とのチームでの支援は今の所行ってない。	体調の異変時は関係医療機関の治療方針にゆだねており、施設対応が困難になった時は契約書による退所の取り扱いとなるということです。しかし将来的には、終末期に向けた支援に取り組んで行く考えを示されています。	今後施設内での終末期を望まれる利用者の方も増えて来る事が予想されますので、終末期に向けた方針の共有と支援作りを進めていくことを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、又、定例会議にて応急処置の方法について研修を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員に派遣依頼をし、消防避難訓練を実施。地域の方にも参加頂き協力体制を築いている。	消防署、地域の区長などの協力を得ながら、年2回の消防非難訓練が行われています。職員は利用者の移動状態を想定しながらの非難法も取り入れています。	施設では、火災対策としてスプリンクラーの設置を来年度に予定されています。出来るだけ早い時期での設置を期待します。

憩いの里富津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人権・人格を尊重し、言葉かけには十分配慮し対応している。	誇りやプライバシーを損なわない対応について、職員間の話し合いの中で十分行われています。地方の独特の言葉づかいに注意したり、誤った対応をした場合は即注意して改めるなどの教育がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示や自己決定が出来るよう、声掛けや気づかいを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴の曜日や時間等決まりはあるが、買物や散歩など、出来る範囲で一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞きながら着替えの準備をするなど、その人らしい身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けなど、個々の能力によって得意な事・出来る事を一緒に行っている。又、苦手な食べ物については栄養面を考慮しながら代替品を提供し、食事が楽しみなものになるよう配慮している。	箸、湯飲み茶碗など使い慣れた本人用の物を使用したり、差し入れられた地域の食材を利用したりして家庭的な生活を取り入れています。食事の手伝いが出来る利用者には使いやすいような明るい赤色系のオープンキッチンが設置されています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量にムラがある方については、毎回、摂取量を記録している。その他の方については、変化があった場合には申し送りをすると共にチェックを行っている。又、個々の状態により食事形態を変えたり、カロリーに配慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方には声掛け・見守りを行い、毎食後、個々に応じた方法で口腔ケアを行っている。		

憩いの里富津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを知り、プライバシーに配慮しながらトイレ誘導を行っている。又、状態に応じてポータブルトイレを設置するなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	全ての居室にトイレと洗面所が設置されており、素早く迷うことなく行ける様に配慮されています。各人の排泄パターンを把握し、トイレへの移乗が難しい利用者にはポータブルトイレを使用するなど安心して排泄できるように支援がされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを知り、便意を逃さぬようトイレ誘導を行っている。繊維の多い食品を取り入れ、十分な水分摂取と適度な運動を行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、それに合わせて自分で着替えを用意したり、入浴の順番を確認し、楽しみにされている。	週3回の入浴曜日、日時は設定されていますが、入浴拒否などがあった場合は、声掛けや時間変更など工夫して安心して入浴できるように支援がされています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息等、個々の生活習慣や状況に応じて自由にゆったりと過ごして頂いている。夜は就寝時間を決めず、無理のないよう本人の希望に沿って休んで頂くよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自、服薬ファイルにて確認・理解しており、変更時は申し送りを行っている。症状の変化には都度、医師・家族と連絡を取り対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各月、季節の行事や誕生会を行い、時に外部者を招き演芸等で楽しんで頂いている。又、毎日の日課として体操や散歩等無理のないよう参加して頂き、気分転換を図っている。一人ひとりの生活歴や力を理解し、それに合わせて役割を担って頂く		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全ての人の希望に添える訳ではないが、一部の人には希望に沿うように対応している。ホームでは対応できないが家族なら対応出来る場合は、家族に意向を伝え実現できるよう支援している。	馴染みの犬猫にあえる近所の散歩、お花見、スーパーへの買い物など、利用者の方が楽しみに行ける様に工夫しながら支援がされています。	



憩いの里富津

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のレベルにより、お金の所持や使用を支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの電話を受け継いだり手紙を受け取る事はしているが、電話を掛けたり手紙を出す事はしていない。(本人の要望を職員が連絡し伝えている。)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感や混乱を招くことのないよう、TVや音楽の音量・室内の温度や明るさなどに配慮している。リビングや玄関に季節の花や果物などを飾り、季節を感じて頂くよう工夫している。	施設内はゆとりのある廊下と共に明るい広さの感じる空間となっています。食堂兼居間は身近に感じるオープンキッチンが取り入れられています。テーブルには季節の花が置かれます。壁には季節感を取り入れた飾りが飾られています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関・テラス・ホール・廊下等にベンチや椅子を置き、好みの場所で過ごして頂いている。リビングにはソファを置きTV視聴や音楽鑑賞、カラオケや団樂が出来るようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具調度品を持ち込んで頂き、本人の要望があれば家族へ伝え、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	居室には、本人の使い慣れた物や好みの物を置いて自由に使えるように支援されています。トイレ、洗面所が設置されておりプライバシーの保護や排泄の心配が少しでも解消されるよう配慮されています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーであり、各居室にはトイレと洗面台を設置、トイレや廊下・浴室等に手摺りをつけ、安全で自立した生活が送れるような環境になっている。		